

第23回神奈川県美術展



第23回神奈川県美術展

●
1期展／工芸・書・写真

昭和62年10月7日(水)→10月18日(日)

●
2期展／日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形

昭和62年10月21日(水)→11月1日(日)

●
会場／神奈川県立県民ホールギャラリー

●
主催／神奈川県美術展委員会・神奈川県

●
入賞作品巡回展

昭和62年11月6日(金)→11月11日(水)

会場／厚木市市民ギャラリー

主催／厚木市・神奈川県美術展委員会・神奈川県

工 芸

工 芸

書

書

写 真

写 真

1 期展：昭和62年10月7日(水)→10月18日(日)

1 期展：昭和62年10月7日(水)→10月18日(日)



大賞 森山可余 俳句(原石鼎) (書)



準大賞 ● 井上 達 宇宙への転回 (工芸)



準大賞 ● 小野 肇 生命の誕生(1,2,3,4) (写真)



特選 ● 山崎和子 Fantasy Space (工芸)



県議会議長賞 ● 山田美代子 20歳まで (1,2,3,4) (写真)



美術奨学会賞 ● 大湊一恵 夢の宮 (工芸)



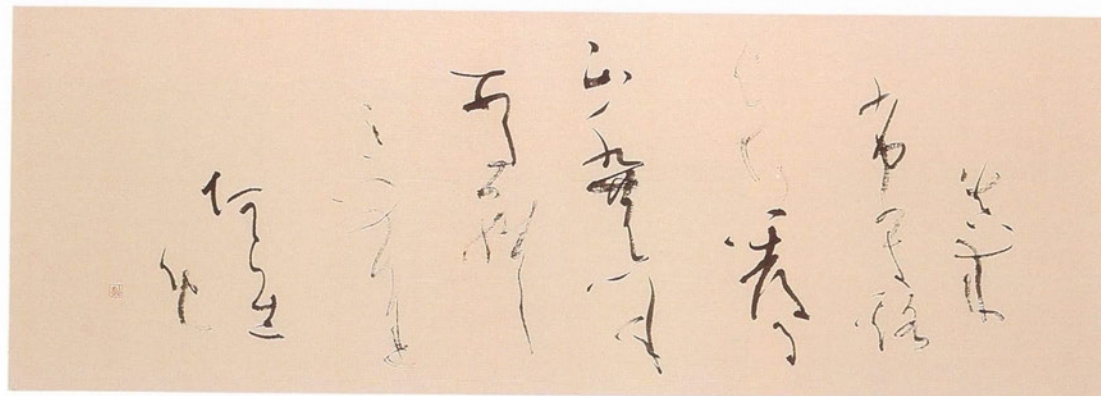
美術奨学会賞 ● 中島光雄 中秋無月 (工芸)



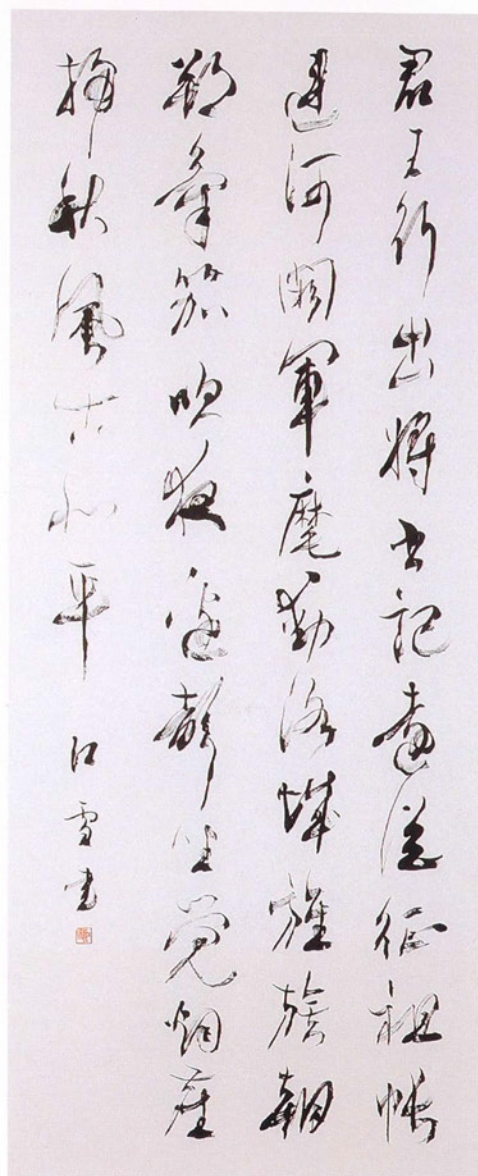
美術奨学会賞 ● 関谷安子 緯の緋 (工芸)



美術奨学会賞 ● 大島謙介 赤壁賦 (書)



美術奨学会賞 ● 横山蕙静
今井邦子の歌一首 (書)



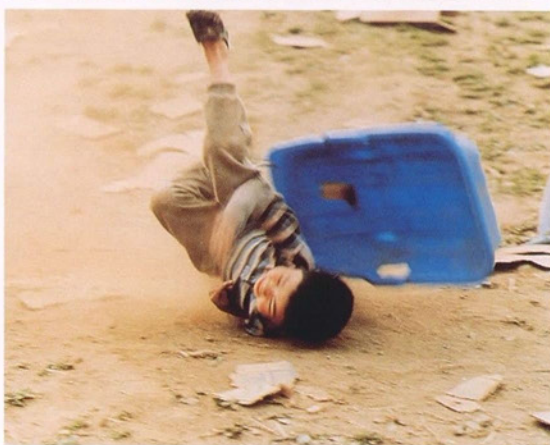
美術奨学会賞 ● 渡辺江雪 送崔融 (書)



美術奨学会賞 勝俣晃男 冬の能登 (写真)



美術奨学会賞 坂 正久 裸婦 (写真)



1	2
3	4

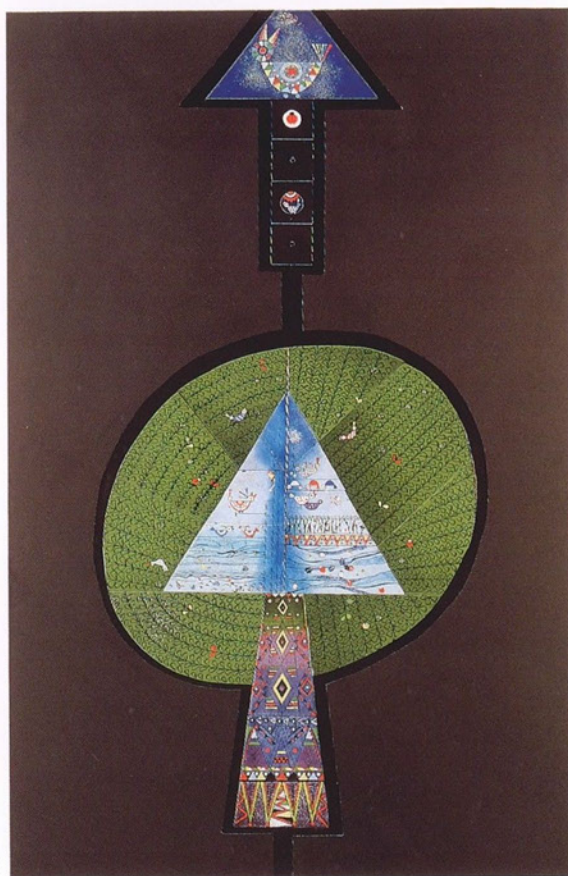
美術奨学会賞 ● 吉川 弘 子供の四季(1,2,3,4) (写真)



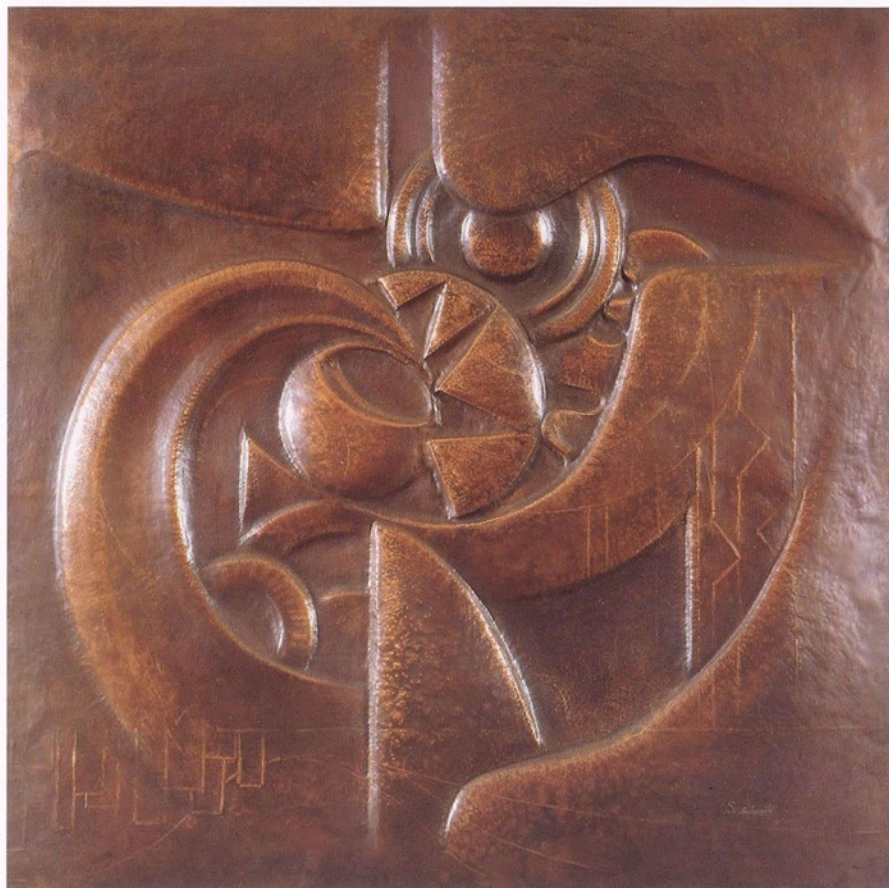
美術奨学会賞 ● 小林重光 出番前 (写真)



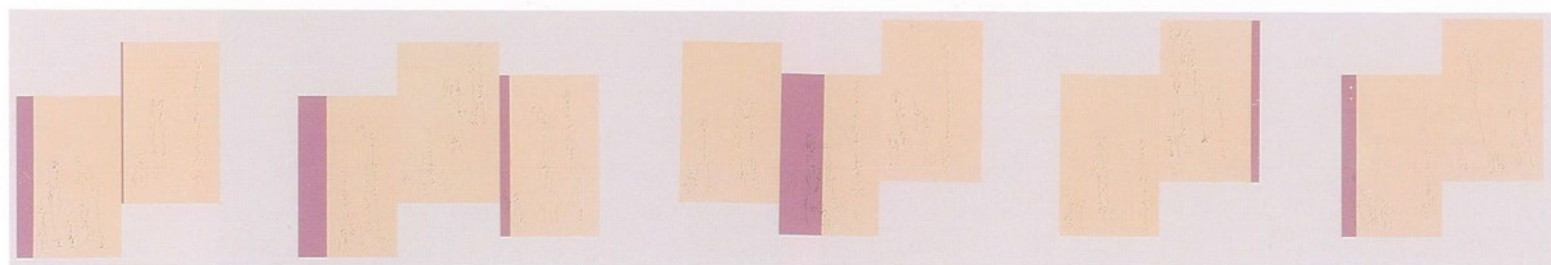
特別奨励賞 鈴木義之 鉢(大・小) (工芸)



特別奨励賞 卯埜たま枝 森の詩 (工芸)



特別奨励賞 ● 坂本幸子 創造体験 (工芸)

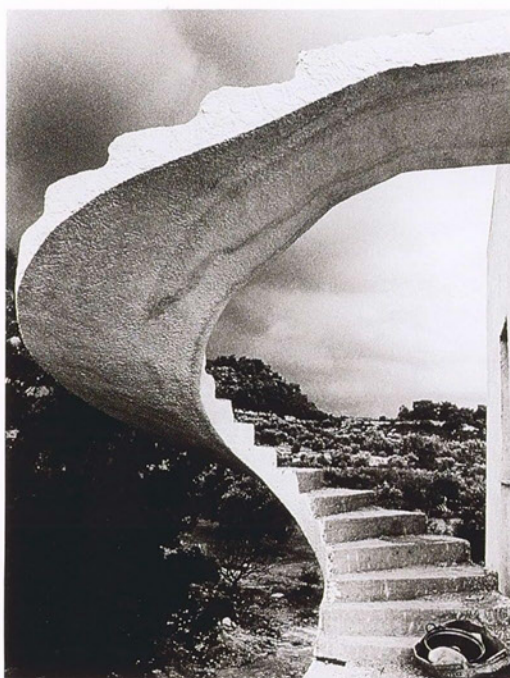


特別奨励賞 ● 山辺静塘 古今和歌集より (書)

特別奨励賞 ● 布川静藍 針切 (書)



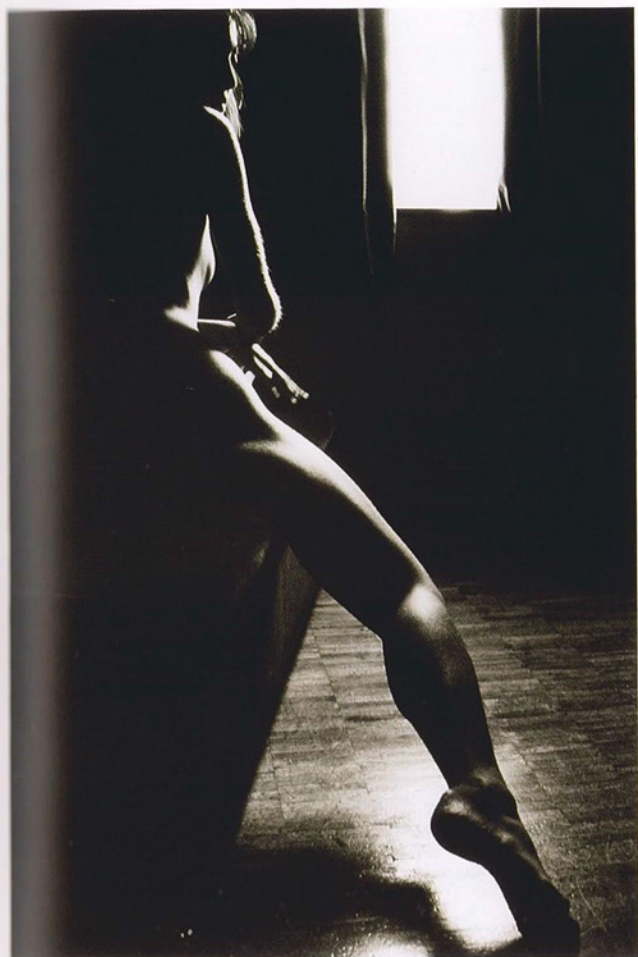
特別奨励賞 ● 菅野充処 九日後朝同賦秋思應制 (書)



特別奨励賞 ● 葛西清悦 ファティマの家 (1,2) (写真)



特別奨励賞 ● 山崎 廣 大道芸人(1,2) (写真)



特別奨励賞 ● 戸塚吉久 アフタヌーン (写真)



特別奨励賞 ● 大川平三郎 三浦海岸のかもめ達 (写真)

受賞作品目録 〈工芸・書・写真部門〉

■大 賞

森 山 可 余 俳句(原石鼎)〈書〉

■準大賞

井 上 達 宙への転回〈工芸〉
小 野 肇 生命の誕生(1, 2, 3, 4)〈写真〉

■特 選

山 崎 和 子 Fantasy Space〈工芸〉

■県議会議長賞

山田美代子 20歳まで(1, 2, 3, 4)〈写真〉

■美術奨学会賞

大 湊 一 恵 夢の筈〈工芸〉
中 島 光 雄 中秋無月〈工芸〉
関 谷 安 子 緯の絢〈工芸〉
大 島 謙 介 赤壁賦〈書〉
横 山 蕙 静 今井邦子の歌一首〈書〉
渡 辺 江 雪 送崔融〈書〉
勝 俣 晃 男 冬の能登(写真)
坂 正 久 裸婦〈写真〉
吉 川 弘 子供の四季(1, 2, 3, 4)〈写真〉
小 林 重 光 出番前〈写真〉

■特別奨励賞

鈴木義之	鉢(大・小)〈工芸〉
卯埜たま枝	森の詩〈工芸〉
坂本幸子	創造体験〈工芸〉
山辺静塘	古今和歌集より〈書〉
布川静藍	針切〈書〉
菅野堯処	九日後朝同賦秋思應制〈書〉
葛西清悦	ファティマの家(1, 2)〈写真〉
山崎 廣	大道芸人(1, 2)〈写真〉
戸塚吉久	アフタヌーン〈写真〉
大川平三郎	三浦海岸のかもめ達〈写真〉

入選作品目録

〈工芸〉

和田 媛 岳 アンチエリカ (額板)
 相原 弥 過密な都市
 八重森千賀 面・々・々
 中沢 秀 舞 葉
 山田 悦子 型染つけ下げ「心模様」
 大澤 恭代 型染め「困惑」
 歌田 輝雄 彩文花器
 鈴木 義之 花 器
 菊池 英代 有線七宝香合 つわぶき
 東村 麗子 壁掛 印度綿 木版捺染
 大塚 正 結晶釉組鉢
 堀口 成依 祭り II
 岡田 稔 鉄層器
 内野 勝雄 黒釉丸文壺
 天野 雅史 栓木地呂大壺
 榊原 容子 有線七宝合子・網目紋様
 高橋 新六 四方鉢揃 (5枚組)
 紺藤 隆一 ガラス花器
 土橋 一博 藍色泡文鉢
 福岡 幸基 瑠璃被せ鉄線文組鉢 (大・小)
 吉澤 澄子 熱 風
 高橋あづま ブルーブルーブルー
 小川 祐子 高台柄出し組紐
 雨森千代子 こざん II
 稗田 燐子 SALIDA-ESPANAより
 村田 則子 「サーカスメモリー」
 並木 昭代 樹
 成田 哲人 友禅長着「薫風」

清村喜美江 雪
 河原 瑠璃 スクリーン(屏風) 太古の封印の解ける時
 鶴田 真澄 花山容
 吉田 健二 焼締急須
 平賀 妙子 焼メ波調紋角鉢 (一对)
 鈴木 正和 牡丹文様鶴首白磁壺
 足立 治男 砂 塵
 下山芙紀子 鉄彩旋舞文皿
 魚見 一子 縄作り 黒天目釉壺
 八木橋芙美子 珠
 林 亘 ブラックホールを覗く
 若林 薫 数千億個もの星々の中で
 楠 隆雄 花文彩磁壺
 中村 和正 天 空
 織田 幸子 ハイビスカス 涼風 蝶 野原
 〃 蝶 野原
 松山香代子 七宝飾り壺春華秋錦 (2点組)
 佐藤 智子 Night Blue
 斉藤三枝子 春のよそおい
 和田富士子 鉢(線)
 永田 一輝 パネル「相模の夜明け」
 富澤 肇 SPACE
 隈元いづみ 怒 濤
 山田 秀雄 流 峰
 出縄 高昭 春 木
 橋口 義昭 対話 A
 杉森 篤子 草木染紬織着物(花芒)
 小沢 和枝 リンゴの様な女

伊藤かおり 森の夜会
 米山 光 黒薩摩大壺
 猪飼美和子 粉引幾何文壺 I
 前野智子 源氏物語 桐壺
 西山美恵子 雪の結晶
 遠藤幸子 華
 佐藤いづみ モネの印象 -END-
 鈴木 緑 桜島扁壺
 村主 武 練り込み鉢
 広瀬祐見 時と影と…
 坂本采季香 追憶の譜
 広瀬悦孝 花 紋
 近藤敬子 流彩文銘々皿 (5枚組)
 金田石泉 備前茶入
 細井基夫 風化と有機体-空間と物体の錯覚
 大八木由紀子 西へ
 舘しのぶ 積み重ねたキュービック
 安井顕太 CRYSTAL BABIES
 相原知子 南のアダン
 市川まさ子 飾 鉢
 翁長 始 鶏冠壺
 高木由美子 悠
 亀田智子 THE LANDSCAPE
 猿田洋子 扁 壺
 高山春江 宵祭り
 三月一彦 盛皿「OTTOTTO」
 藤野 實 花器 I
 咲本征一郎 A Hollow
 鈴谷茂翁 棗 残果

平野朱美 CARNIVAL NIGHT
 中野幸男 清流
 石塚 操 櫛目象嵌皿
 島村信一 花ひらく
 中島 貴 銅赤被椿文硝子鉢
 中曽根 馨 大羽根文扁壺
 小沢 忠 紺青釉八角皿
 // 紺青釉盤
 多々内都子 韻 象
 羽生恵子 数学的々遊戯 No.1
 江崎茂穂 甲殻植物
 吉崎えり ROMANTISCHE STRASSE
 中村良哉 八曲輪花大鉢
 成石茉莉 道
 多賀ちか 翔 空
 谷田部君江 華
 菊田 明 流文大壺
 市原富士子 ジュウリー
 横田 敦 妖 麗
 山口浩二 宙吹硝子花器 水流
 松原越郎 赤絵酒器
 波多野安希 宙の音
 新井友子 秋草文様着尺
 田口三恵子 夢の中で
 太田美佐枝 風
 宮内恭子 訪問着「秋飾」
 吉崎僚一 葉桜山文三島鉢
 阿部一順 緑隆櫛目壺

高田 深雪 経紺紬着尺
 木下もと子 紅型横浜風景文振袖着物
 水越 繁 華
 大原 乾資 綿布菜藍板締
 南部 泰子 山なみ蒔絵箱
 小林 豊 彩線黒容
 村田 五郎 黄瀬戸松葉文鉢
 関 佳子 野の花 春・秋
 高野 聖子 …みてみてみて…
 伊藤 律子 うねあみの花器
 小園 敏樹 溜塗柚肌線文盛器
 伊藤 美和 蒼 炎
 門脇万紀子 六支紋飾皿
 佐々木達行 三島鉢「宇宙」
 わた辺きようこ 有線七宝「あじさい文蓋物」
 山下 敦子 夏の詩
 石月まり子 五倍子染紬織着物
 〃 紬織着物「秋日」
 丸田 秀三 階段一影

〈書〉

吉村 瑞峰 李白詩
 植村 三洲 隸書（論語之一節）
 山本 花聲 唐 詩
 佐藤 秋翠 万葉旅の歌
 黒坂 春香 和歌二首「南の」
 薄木 水雲 人天宝鑑詩
 臼田 美香 高野切第三種
 千葉 夢玲 「書」（源氏絵巻みのり）より、かな
 小巻 仙空 高青邱詩
 三津木芝影 杜甫詩
 鈴木 香潭 杜甫詩
 山口 清晴 杜甫詩
 横山 芳碩 杜甫詩
 志村 魯崙 吳昌碩詩稿
 河合 瑞祥 杜甫詩二首
 大矢 鳳城 縵
 尾冢 瓊崙 黄山谷の詩
 黒田 秒崙 蘇東坡の詩
 白水 敬華 白樂天詩
 小林 清坡 王維詩二首
 竹俣 華崙 韋應物詩
 牧野 靄崙 李長吉詩「洛妹真珠」
 貫井 芙蓉 吳昌碩臨
 浜岡 見雲 杜少陵詩
 沓掛 和絵 赤彦の歌二首
 平田 由江 前有樽酒行
 入江 正洲 郭道士を尋ぬるに遇わず 日居易詩 尋郭道士不遇
 棧敷 東石 くさ木

菊地順恵 翠貞菴訪晦之不遇
和気清堂 白居易詩江南兄弟に寄す
木田南岳 良寛詩
木多良子 万葉の歌
溝口京子 秋のうた
丸山美津江 秋風
立木紫絢 四季
布野里子 月の歌
宮川勝美 関戸本古今集臨書
飛田蕙風 会津八一の歌二首
浅間秋蕙 奥の細道の一節
明石蕙州 会津八一の歌一首
古思蕙風 長塚節の歌三首
岡本蘇心 秋風は涼しくなりぬ 和歌一首
小澤蕙芳 木下幸文の歌二首
秋重蕙永 わだつみの土に漂ふ
徳久郁 吳中田婦嘆蘇東波詩
増田浩子 和歌
新井素光 万葉の花
松岡梅影 島の千歳
高橋蘭徑 枕草子
吉川蕉雨 百人一首より
木戸梢光 かな更級日記
高崎浩子 万葉集より
杉山梅波 陶淵明詩
中村蒼汀 嬌女詩
小川如泉 李頎詩
篠原圭苑 重經昭陵 杜甫詩

荒井壽逕 李太白詩
新屋京子 孟浩然詩
松田松逕 古今集 花の香を外8首
川手敬湖 与謝野晶子の歌
馬場虹苑 詩 中原中也
梅田昌葉 堀口大学の詩 海の風景
上野春海 田中冬二の詩 追憶の母
川瀬魚石 雲と鷹より 杉山羚羊句
滝沢恵子 白壁の屋敷町
栗野蝶 啄木のうた
国谷寿 吉野弘の詩
渡辺美代子 五人百姓
問馬敬竹 宮沢賢治詩 風の又三郎
安田達子 北原白秋の詩（からたちの花）
糟須海夏子 露谷虹児の詩「花嫁人形」
小林千幸 西脇順三郎の詩「旅人かえらず」
穂坂美代子 父と娘
綿貫吉野 伊東静雄の詩（読人不知）
林久美子 おみなえし
曾雌公子 夕陽
千葉清子 素朴な琴
太木銀子 つめたい夜
太木明子 水辺の木
宮本照子 水原エリ詩 フルーツカクテル
志村寿美恵 八木重吉詩 愛のことば
中村紅雨 山田今次の詩
関根玄道 草野心平詩
小泉恵俊 知床旅情

水野裕子 福士幸次郎の詩「白の微動」
福島霞葉 高田敏子の詩「あじさい」
紙谷由希子 三好達治の詩
今泉眞知子 赤とんぼ
鷺見奈保子 岡部伊都子の詩「秋霖」
八木香葉 野島茂詩「海へ」より
飯田夜想 しらなみ
河村由美 邵康節詩二首
山根静子 寒山詩
林ふく 杜甫詩
佐高捷 王安石詩
荻原洋子 岡部伊都子の詩「風花」
三浦ゆつこ 李白詩
梅原正美 杜甫詩
青木清美 華清宮
山口澄翠 成徳楽
川本歌子 春夜洛城聞笛
杉山幽翠 江行
長山哲子 破山寺後禪院
深松耿翠 渡荊門送別
福井幽紅 宴邊將
今井幽耿 西山
川島喜代美 同王徵君洞庭有懷
内山幽蘭 竹里館
飯森芳苑 疎陂駅に宿す
上遠野紅舟 杜甫詩 哀江頭
栗橋東崖 飲中八仙歌
城所良佳 李白詩

平田十臥 杜甫詩
笛田玉茜 西山(常建詩)
服部青昌 梅
伊藤青光 花
谷川初葉 叔明松壑秋雲圖
英瑛香 峴山懷古
井藤祥柳 白居易詩二首
小原芳羊 雪後書北臺壁
埴原紅芳 望廬山瀑布
滝口伸葉 季白詩 把酒問月
細山明芳 蘇東坡詩
橋本抱葉 司宮曙詩
横山蘭葉 玉華宮(杜甫詩)
栗山晴嶺 七言律詩(陸游)
茶木静萌 劉長卿詩二首
木須青苑 常建詩
大木修葉 拾得古硯
廣瀬閑流 陸游七言律詩
春山右濤 劉禹錫詩
山本右高 杜甫詩二首
土屋右泉 張謂詩二首
中溝右暉 古詩二首
松尾右翠 唐詩二題
吉田桂秋 千字文
大江喜桂華 百人一首
川越秋聲 瑞図七絶
矢追貞子 万葉の霧
矢追章子 小草

塩沢郁子 臨筋切
佐藤俊恵 臨書香紙切
御園順子 ほととぎす
箕浦春泉 夢路
鶴田蓉子 くろもじの
島田幸舟 春のよの
貝原玉峰 岳甫詩「悲恋毬藻歌」
伊藤慶流 李白詩
鈴木香旗 唐詩濶湖山寺
野頭喜一郎 杜牧詩
小山力子 帰園田居
池田莊春 開光瀑布
神藤松代 漢詩（唐詩）
飯塚美佐子 登首陽山謁夷齊廟
関口美智子 張九齡詩
鈴木淳子 上方詩東坡先生石刻詩次韻
小俣照子 鮫人歌
若林花泉 李白詩 古風
門倉裕子 封丘県
田所寿泉 揚州送伯齡過江
田村秀亭 書王建詩田家留客
鈴木静耕 杜甫詩
内田昇 拾得古硯
北浦豊舟 柳宗元詩
山口ヨシエ 江上吟
紙崎玉澣 皮休日詩 秋夜有懷
谷口春泉 蘇東坡詩
金田喬処 劉滄詩

楠禮子 簫筆駅（李商隱）詩人名
柴田明洞 蘇軾詩「初秋 子由に寄す」
佐藤柚処 李長吉詩 馬詩二十三首
府川泉処 杜甫詩
鎌田格処 李長吉詩
尾崎静鳳 良寛詩
近藤粹処 王維詩
早瀬香谷 良寛詩
大山青高 春陵行
加藤純子 村居（五言律詩）
渡辺幽佳 春の海
高橋淑子 関戸本古今集
有吉明美 香紙切
口村妙子 わかの浦に潮みちくれば
加藤翠郷 短歌行
森草坡 菅原道真詩
橋本芳雪 ひさかたの万葉集 大伴家持
三浦士岳 司空図詩二首
宮澤青峰 杜甫詩
三原和子 晶子四季の恋歌

〈写 真〉

有田 政一 流水に立つ
近藤 宏 光芒
〃 秋の詩
松枝 洋 談山神社の秋 (1)
片岡 順一 飛 害
磯崎 文造 愛し合う神々 (道祖神) (1)・(3)
松島 寛 DOLL
矢澤 晴夫 上溝夏祭 (2)・(3)
財津 富夫 天 使
進藤ヤエ子 昼下りの橋
稲次 敏雄 シルクロードの道
鈴木 貞夫 お玉ヶ池造形 A・B・C
山地 昭 サクラ記念日
小宮 信幸 1分30秒の競艶 (1)・(2)・(3)・(4)
菅原 勇喜 山中湖冬景
越川 敏子 スペインの若者達 (アルハンブラ宮殿)
草柳 央 初冬の北浦
河西 祿朗 大関小錦の休日(1)・(2)・(3)
石渡 四郎 野獣
尾原 芳子 高原の蝶々たち
たなか陽子 この地点 I・II
土橋 周子 ハラジュク無宿
藤井 けん 港のカンヴァス (2)・(3)
野村 朝治 残照(1)・(2)・(3)
〃 惜春(1)・(2)
橋本 春男 雲と富士
埜渡 光雄 人形の家
小俣 吉弘 旭 光

柴田 浩一 過ぎゆくままに
北本 幸一 火渡り (1)・(2)・(3)
堀坂 和夫 激 闘
難波 堯子 インドの街角で I
藤原 義守 真珠の肌
村上 昭子 巡礼者の朝
宮川 茂治 新しい土地 (1)
本間 英夫 霧ヶ峯
彦坂 勝良 華の幻想 (1)・(2)
矢部千代吉 横須賀ストーリー (1)・(3)・(5)
望月 勝美 水 槽
佐藤 誠治 ミーティング
角井 勉 おんな
小室八千雄 萌 木
渡部 満 ガンバレ富士登山競走 (1)・(2)・(3)
石谷 一郎 昼下がりの女
鴨崎 栄夫 墓標の尾根 (1)・(2)・(3)
波田野誠司 十代の終焉
臼井 孝 雨の浅草
宮川 学 横浜薪能 (1)・(2)・(3)
蒲原 正久 寂 光
水谷 信 サラブレッド
福井 清 納涼 (1)・(2)・(3)
姫野日出夫 コンポジション
市川 美幸 exceed zone
キムラノブオ 花火 (1)・(2)
町田 直之 妊 婦
土屋誠一郎 オロフレ峠

水嶋 聡 司 夕空のグラデーションー浦賀

川原 龍 昭 富士 (1)・(2)・(3)

村山 章 月夜のひまわり

仁平 廣 休 日

関口 幸 雄 白い帽子

わた辺きようこ 夏の日

青地 則 明 恋人たちの午後

〈工芸〉

第23回展の工芸部門には、例年を大巾に上回る271点の応募があった。各専門分野の審査員10名により十分な時間をかけて厳正公平な審査を行なった。その結果、入選140点、受賞8点である。

応募点数が増え、材種の領域も広がってきたのは喜ばしいが、内容も一段と充実したとは一概に云いにくい。昨年も指摘されているように、実績のある作家たちの多くが、本展を卒業したということからか、出品していないのにも由来していよう。毎年、ほとんど新しい人達の出品作を眼のあたりにすれば、自とそこには、作品に奥行とか厚み、質の高さという点で不満が残るのである。

工芸の宿命とも云える、技術をかなり習得した上で、自己の美的表現をなさねばならない課題がつきまとい、大きな負担になっていることは確かで、一朝一夕には望めないが、本展の開催規模を考慮すれば、ここは単に新人の登竜門だけであってはなるまい。一考を要し、更なる充実をはかっていきたいものである。

ともあれ県民の人達のお楽しみという配慮も働いてか、緩選になった。受賞作にふれてみると、準大賞に井上達「宙への転回」(陶芸)が選ばれた。現代陶芸の分野で、やきものでは難かしいかたちに取り組み、見事に焼成している。力強いエネルギーを内包したフォルムは、宇宙の構成原理や、はたまた人類の近代科学の創造物か、鋭い造形感覚を評価した。特選の山崎和子「Fantasy Space」(染色)は、明快な構成とクールな色調でまとめ、甘い情緒に流れない乾いた画面は、透徹した眼で現代社会の側面を表出しているのかもしれない。美術奨学会賞、大湊一恵「夢の筥」(人形)は確かな技術に裏打されて愛らしく、しかも馥郁とした香り高い佳品である。同、関谷安子「緯の紵」(染織)は、色合、風合ともに、品格のある作品である。全、中島光雄「中秋無月」(陶芸)は、大らかで、伸びやかな形体と色釉が心地よいハーモニーを醸している。特別奨励賞の卯野たま枝「森の詩」(七宝)は、数ある七宝作品の中でも出色で、きめのこまかい仕事ぶりとメルヘンの世界へ誘う、楽しい夢のあ

るものになっている。全、坂本幸子「創造体験」(金工)は、銅板を打出したレリーフの労作で、ユニークな存在。同、鈴木義之「鉢」(硝子)は、クリスタルの宙吹きガラス鉢に花模様を彫り込んだ素直な作品であった。他に惜しくも賞を逸したが、染色の壁面の作品や七宝にみるべきものが多かった。今後を大いに楽しみしている。

永井鐵太郎

- 搬入点数 271点(209人)
- 入選点数 140点(136人)

〈書〉

書部門に於ける本年度の出品点数は初めて昨年を下回りました。今年次々々漸増しておりましたがこの減少には理由があります。それは従来断然多かった漢字の2尺×8尺の作品が減ったことによります。近時諸般の展覧会の作品型態がこの2尺×8尺の長条幅が圧倒的でその結果聊か劃一的且マンネリズムの感がありましたが、本年はこれを大幅にセーブした結果出品点数に反影したものと思はれます。然しこの同一型態の制限に依って、従前より新鮮な展開が期待されます。このことは書部門に於ける本年度の特徴の一つと云ってよいでしょう。更に本年は今迄の鑑別方法を改めて各審査員の持ち点を1点から5点迄と幅を広げたことにより入選と選外作品の差違が鮮明になったことです。従来、ともすれば微差で入落が決定し、その境界線上の作品の鑑別に苦慮しましたが本年はその優劣が明かに確認出来ました。この事は審査遂行上の事柄ですが附言しておきます。

作品内容は全般的に徐々ではあるが向上の跡付けを見ることが出来ます。漢字部では所謂変型の作品制作に苦心し乍らもそれぞれ工風の跡が見られました。仮名部では昨年指摘した臨書作品が減り出品者の創意によるものが増えましたが、大字かな作品に力強さが足りない様でした。近代詩文書の分野では有力指導者の病没にもかゝらず可成りの出品がありましたが、更に表現の多様性を求めたいと思います。このことは仲々困難なことなのですが、あえて希求するものです。その中でも本年度見事に大賞に選ばれた「森山可余」君の作品は従来のこの種の作品の表現様式から一味違った風趣を醸しております。草法も巧みで特に余白との絶妙のかゝわり、ともすれば書き過ぎる表現の中でいわば七分に抑えており暗示的で現代の感性に共鳴するものを示しております。以下各部門の入賞作品に付いてはそれぞれ感る完成度を示すものですが、次年度は更に一段の向上を期待致します。

殿村藍田

- 搬入点数 278点(278人)
- 入選点数 195点(195人)

〈写真〉

神奈川県の写真界のメッカと言われた県美展も、23年の歳月をへて、「年年花は変らず 歳歳人同じからず」で、いくたの優秀作家が輩出した。今年もまた、はなばなしい新鋭、老練の攻防戦が展開されたのである。

見事に準大賞の栄冠をかちえた、小野肇「生命の誕生」は、人間が生れてくる最も厳粛な瞬間を映像化したもので、映画の世界では数多くの作品がでているが、スチール写真の作品はあまりない。私が見たもので感銘したのは、「ザ・ファミリー・オブ・マン」のトップの新生児誕生の写真があるのみだ。この作品のよさは、医師が写したことによる手堅さと、押えに押えたライティングにより、ショッキングなものを、重厚な画面に描いた表現技法のうまさである。県議会議長賞の山田美代子「20歳まで」は、少年から青年への変転を見せたもので、作者の意図は、なかなか深い。一瞥したときは、平凡な4枚のポートレートであったが、よく観賞すると、この思春期から青年へのそれとない、心の転移が感じられた。優れたセンスの女流作家の出現である。美術奨学会賞の4点の内、大ベテランの久々の登場はうれしい。「冬の能登」勝俣晃男は、ローカルカラーがよくでている。テクニクが抜群で、危なげのない作品である。坂正久「裸婦」は、ヌードをモチーフにして、デザイン的表現で、興味を抱かせた。小林重光「出番前」は、祭りの楽屋の一隅の、神楽面の踊手の出を待つ姿態が、なんともユーモラスである。吉川弘「子供の四季」は、こどもが自然の山野で、遊びつつ育って行く姿を謳歌しているのがいい。試験地獄に対するアイロニーとして観賞した。

特別奨励賞の4点の内、戸塚吉久「アフタヌーン」は、ヌードをダイナミックに表現して、迫力がある。脚線美を生かして、効果がでた。山崎廣「大道芸人」は、野毛町の大道芸フェスティバルを刻明に写した作品で、多数の枚数で見せたのが成功した。いかにも大道芸の見世物らしい、パフォーマンスのムードが溢れている。大川平三郎「三浦海岸のかもめ達」は、作者の独壇場のリモコン操作によるカモメの生態で、他のコンテストでも数々の賞を獲得しているが、当県美展でも、その労をねぎ

らうこととした。ライフワークとして、いろいろな野鳥の生態を、リモコン撮影によって優れた一瞬を撮りつづけて欲しい。葛西清悦「ファティマの家」は、作者独自の主観主義的な作品だが、これを世紀末幻想と見る人、或は白日夢を感じる人といういろいろだが、ミステリー的な面白さがあった。

奥村泰宏

- 搬入点数 210点(104人)
- 入選点数 117点(71人)

日本画

日本画

洋画

洋画

版画

版画

彫刻

彫刻

立体造形

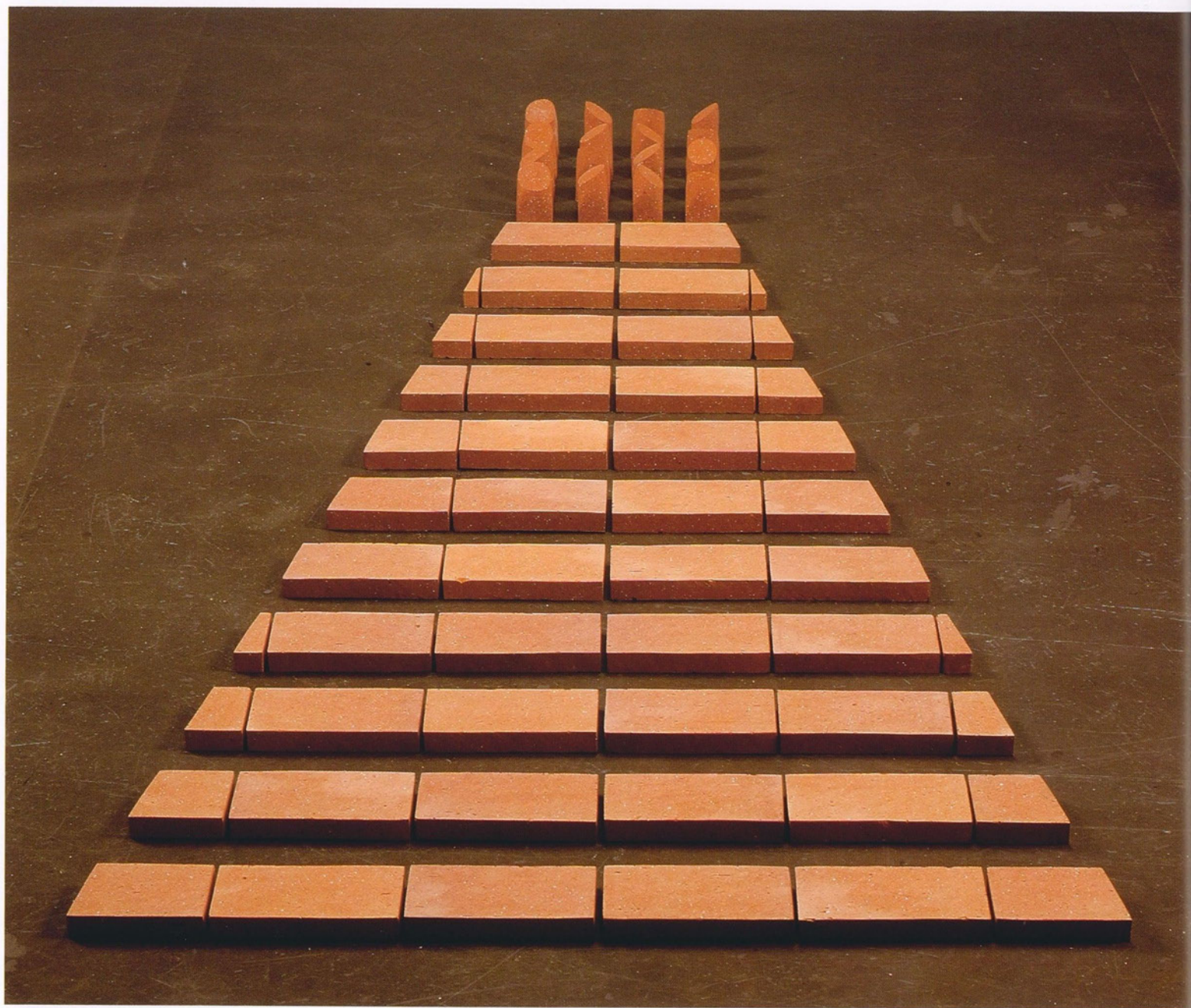
立体造形

2期展：昭和62年10月21日(水)→11月1日(日)

2期展：昭和62年10月21日(水)→11月1日(日)



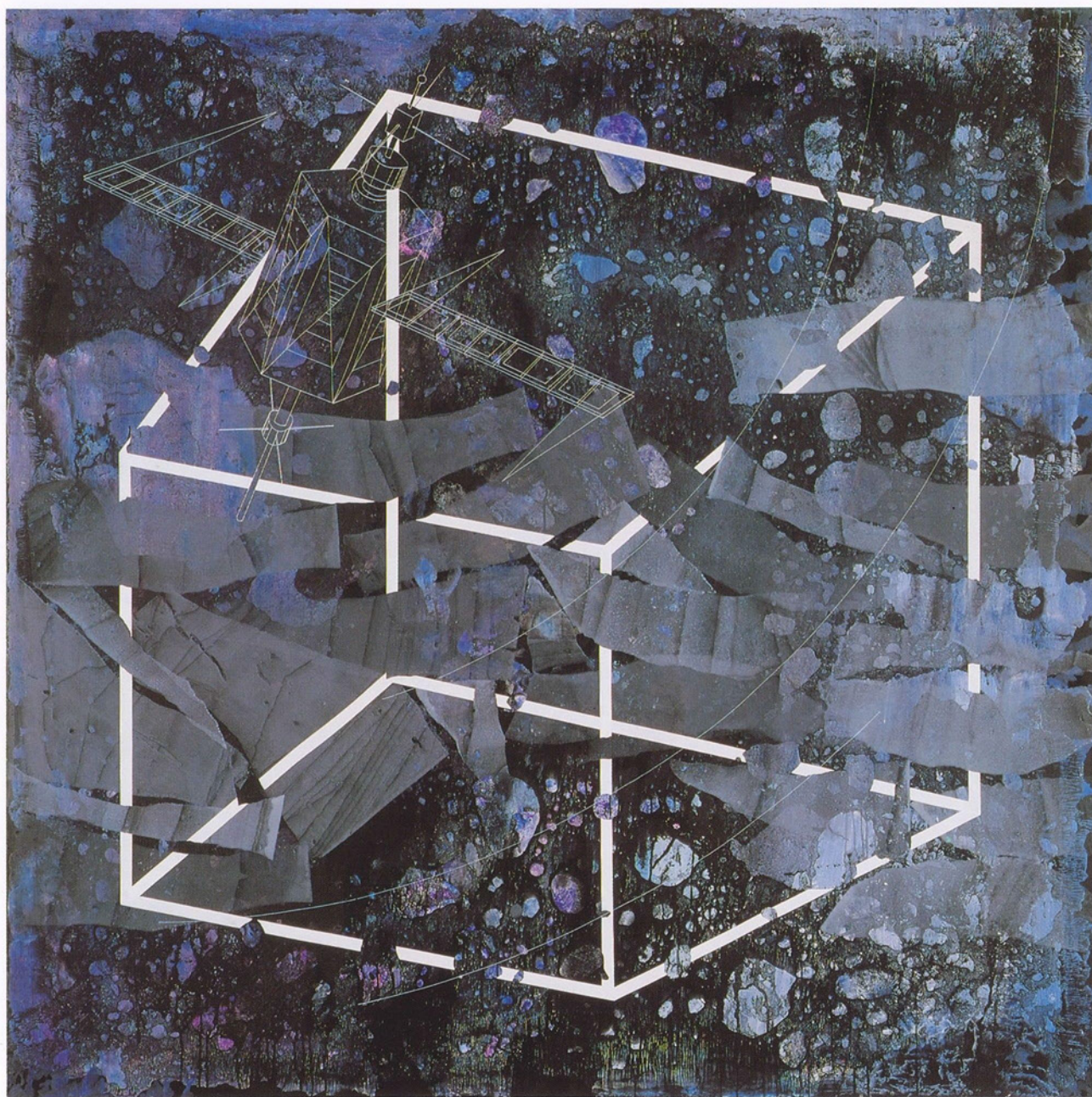
大賞 ● 高橋洋子 WAVE (BLUE FENCE) (立体造形)



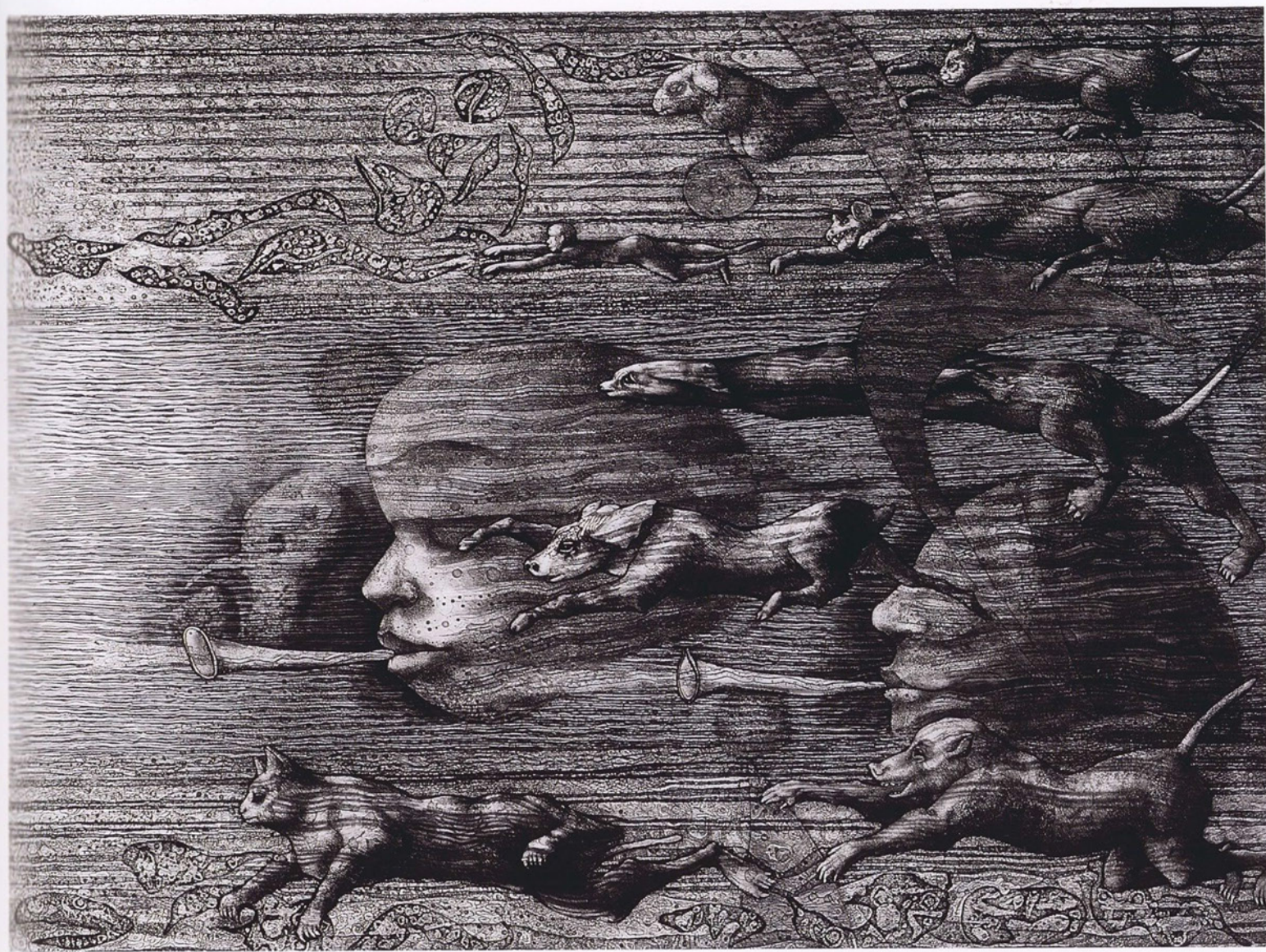
準大賞 ● MADAN LAL LANDSCAPE (彫刻)



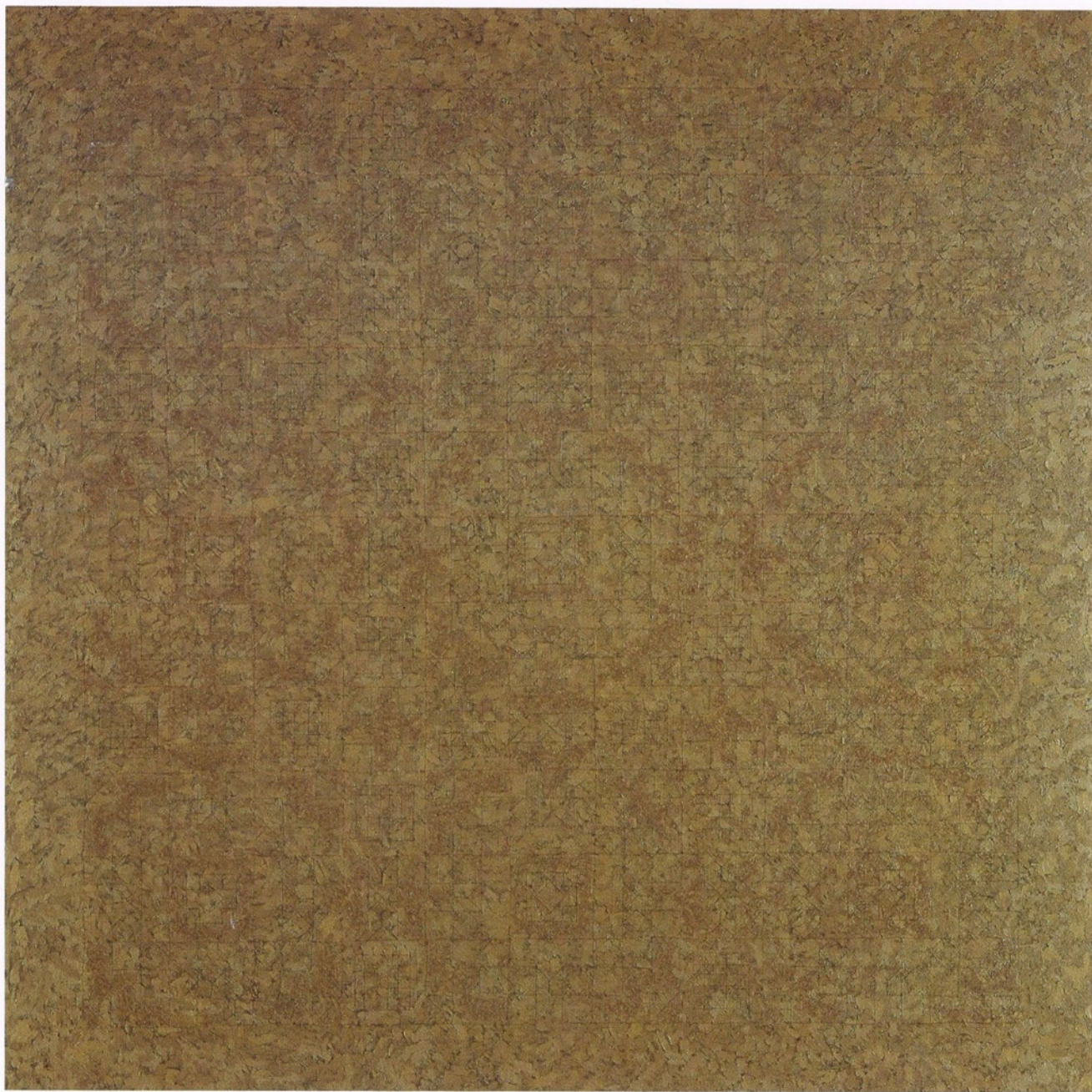
特 選 ● 清野圭一 夜の響 (日本画)



特選 ● 白井恵之輔 FU87-7 (洋画)



特選 隈部滋子 Blowing in the Stream (版画)



県立近代美術館賞 ● 齊藤由美 星霜 なつ (洋画)



美術奨学会賞 ● 高沢かおり とうもろこしの畑 (日本画)



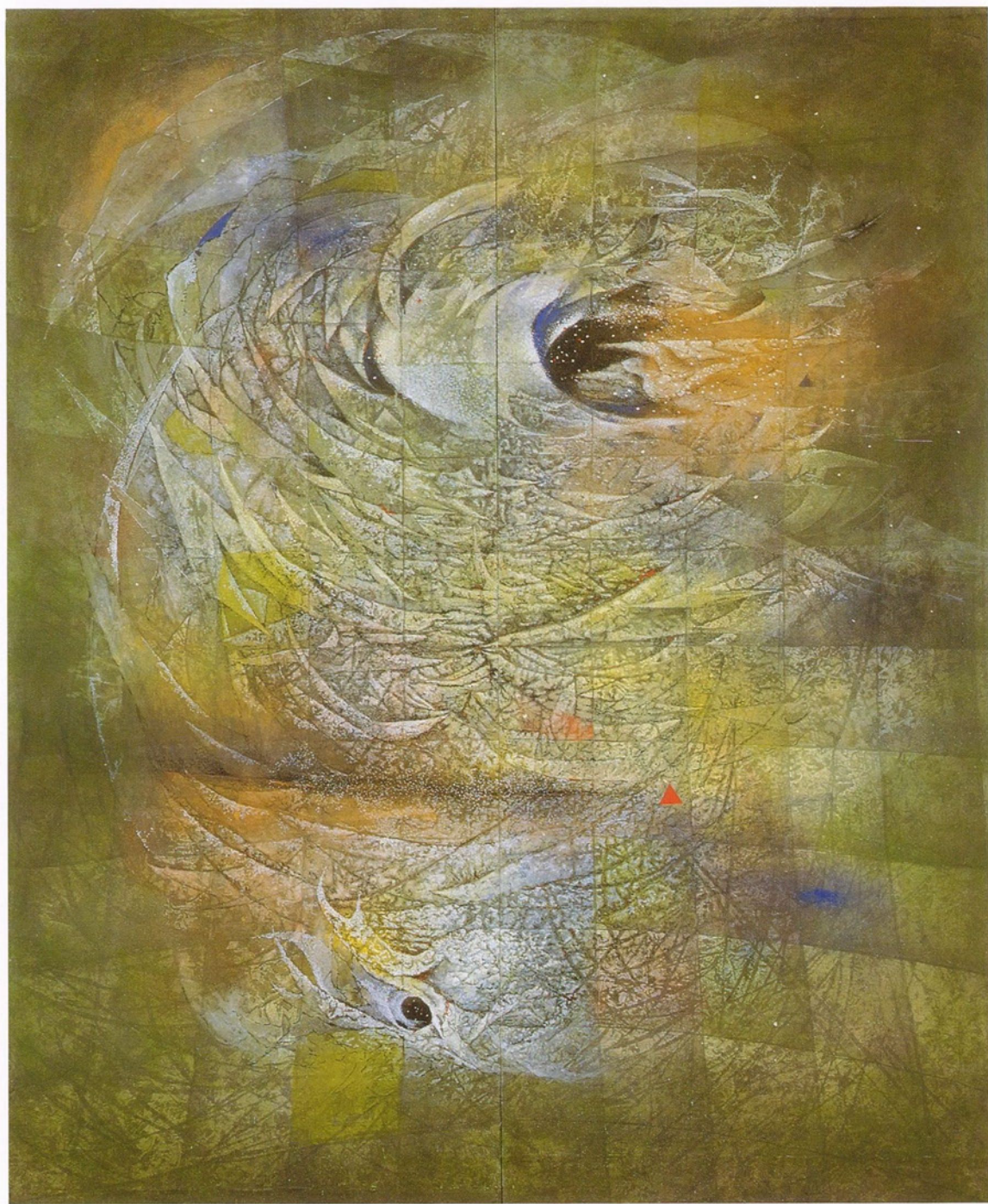
美術奨学会賞 ● 藤浪理恵子 種子 (版画)



美術奨学会賞 ● 神山茂樹 岬 (彫刻)



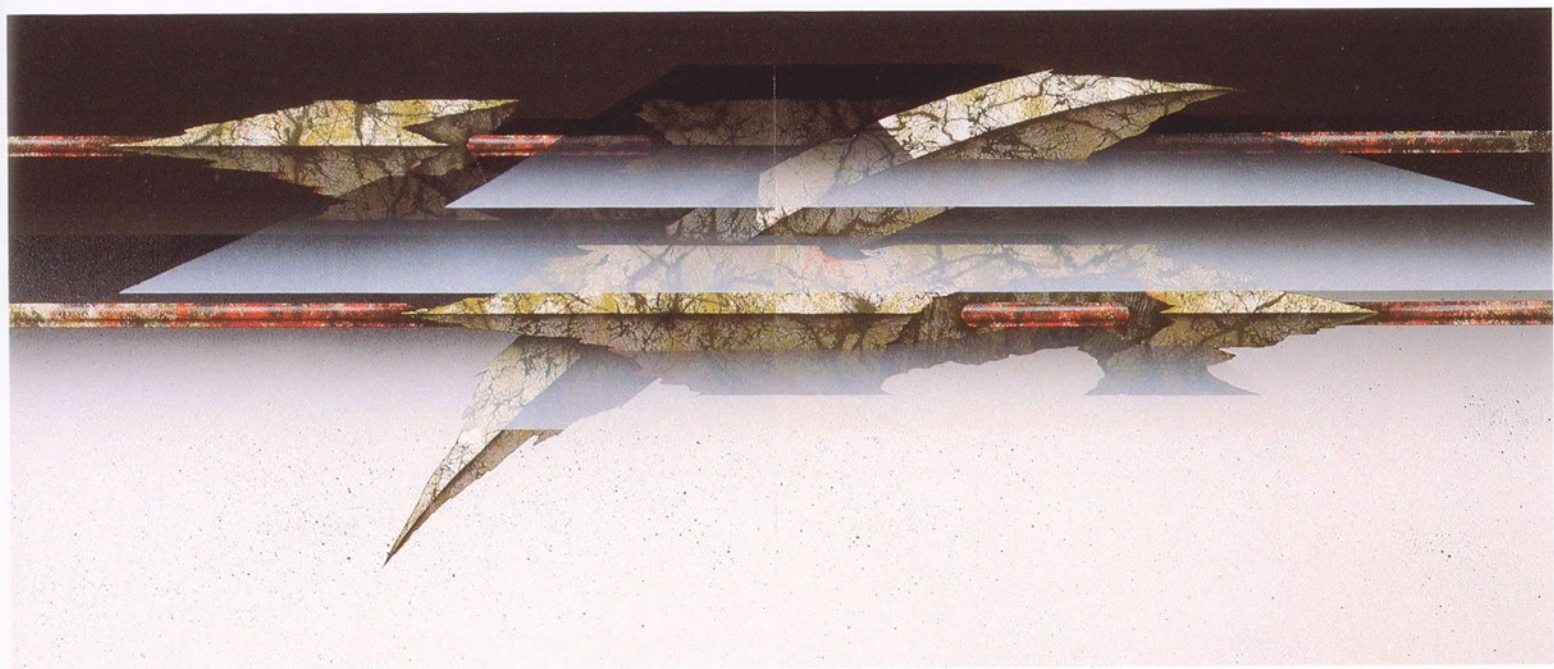
美術奨学会賞 ● 山上晴光 circle $\phi 3500$ (立体造形)



特別奨励賞 ● 小玉文夫 宙 (日本画)



特別奨励賞 ● 桜井陽子 ONE SPACE 2 (洋画)



特別奨励賞 ● 西川洋一郎 MIRAGE '86-7 (版画)



特別奨励賞 ● 長江真弥 家 II (彫刻)



特別奨励賞 ● INGRID HEUSER 東京へのオマージュ女殺人者のための祭壇(三体一対)
(立体造形)

受賞作品目録 〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門〉

■大 賞

高 橋 洋 子 WAVE(BLUE FENCE)〈立体造形〉

■準大賞

MADAN LAL LANDSCAPE〈彫刻〉

■特 選

清 野 圭 一 夜の響〈日本画〉

臼井恵之輔 FU87-7〈洋画〉

隈 部 滋 子 Blowing in the Stream〈版画〉

■県立近代美術館賞

斉 藤 由 美 星霜 なつ〈洋画〉

■美術奨学会賞

高沢かおり とうもろこしの畑〈日本画〉

藤浪理恵子 種 子〈版画〉

神 山 茂 樹 岬 〈彫刻〉

山 上 晴 光 Circle φ3500〈立体造形〉

■特別奨励賞

小 玉 文 夫 宙 〈日本画〉

桜 井 陽 子 ONE SPACE 2 〈洋画〉

西川洋一郎 MIRAGE '86-7〈版画〉

長 江 真 弥 家 II 〈彫刻〉

INGRID HEUSER 東京へのオマージュ女殺人者のための祭壇(三体一対) 〈立体造形〉

入選作品目録

〈日本画〉

奥山たか子 愁 想
品川 成明 景
瀧本佳子 幽 寂
榊原菜穂子 地
内山 徹 島
松谷千夏子 (portrait) 行く夏
村田 林蔵 湿 原
吉武千枝 六月の花嫁 I
栗城 貴宗 ベッドタウン PM3:00
松崎達夫 うつりゆく日々
月館京子 集 う
千葉純子 祭りの準備
佐脇満希子 静寂から7日目
中村 萬里 「Déjà vu」
鈴木國男 Mからの電話
山崎 洋子 光
樋口 薫 自分のいる場所 館内A
鶴田 耕治 想 刻
岡崎孝彦 回 想
匂坂 均 想
野崎 貢 義経記〜衣川
加藤敏夫 昇 華
小野友三 夢 境
松田 一弘 風の音
波多野杜邦 明ける

〈洋 画〉

北川 朝子 異国 (I)
龍池 敦美 リズム I
横山将二 作品1987-03
石塚三悟 消えた都市空間
仲 圭子 鯉のぼりのある部屋
堀部 恵 作品石-II
石井 誠 生まれる水 (NEWON)
池田修三 心の扉
成田麻生 POSITION 8742
大木 薫 マーチ・C
萩原和子 画集のある静物
月岡和子 " 10 Minuten in der Hölle"
吉野敦子 フュージョン III
宮崎郁子 遊 (amuse)
片岡世喜 望
加藤恭夫 窓辺 II
望月久子 かすかな光
高谷弥栄子 水飲む子
田村典雄 きんぎょすくい
江川光信 枯木林 (2)
北山良文 風の中に
安藤節子 ヨコハマ
梅原健二 二つの出口
塩川高敏 樹映 (響)
佐藤照代 内燃機関
たなか陽子 in this point-G
青木道夫 埋没していく私の街
坂本佳子 Welcome To "FRAMINGO WORLD"

齊藤 猛 視 線
山本 晃司 禁 止
鈴江 静枝 女 (その2)
大須賀虎光 午後4時の風景
渡辺 勇 Son los telefonos (II)
田中 善隆 わたしはとぶ I
峯村 敏 静 態
阿部 英也 風のなごり II
吉田 誠子 戻換・I
永島 康功 対比 (B)
戸村 孝子 翔
松沢 五男 昨日の風景
藤村 弘子 RUIN II
押田 陽子 漂II
栗野 敬三 郷
三塩 寿子 希望 (A)
小川 知紀 空間認識 No.17
渋谷 清 ますらお
男谷 省吾 縄と浮
中山 智介 白き道
長岡 一豊 木馬のある静物
竹村 皓子 遠い道
三本 博子 水晶玉 IV
黒川 洋 Note-3 (架空の語気)
大久保俊夫 拡声器のある広場
永山登起子 GIFT FROM THE SEA
高山 博行 思考の凍結 I
本多 恵理 UMI・ぎ・せよん

嶋田 道子 静物 A
犬塚 勉 私の夏休み
十時 孝好 UMA (87-10)
武井美矢子 Fossil II
神尾 和由 TEATRINO II
古藤 典子 Landfall 86-12
坂本 健 旅立ちの日まで (A)
高橋 庸祐 大地 A
今川 保充 風 景
伊藤 紀子 敵 心
西川美智子 群 I
中村智恵美 作品-be
いの上重子 VINYL I
加藤 幸寿 人間思考 (II)
出口 佳子 大地 No.1
青木登史男 遊能碁呂嶋 (I)
立山 崇 標識 A
根本 雅行 風 景
小林 政雄 黒い虹

〈版 画〉

澤岡泰子 過ぎゆく夏の日に
鈴木道子 Body 10
中込洋子 アンドロギュヌス I
染谷ひさお 湘南海岸 STREET No.2
松野登美子 断層62 II
日向野桂子 見えないメガネ
大槻博司 姍
横尾文子 光のかたち
市川有子 浮かぶ '87-26
雙田実 旅 人
小林守 肖像-日
杉山一夫 ヨコスカドブ板シリーズ「テネシーワルツ」
高垣秀光 Where from-201 (何処から)
寺田有恒 時 空
橋本繁 bird-I
藤田修 Warehouse
大庭明子 おかず
富田辰男 Wind From The Sea
村岡千秋 チャイナ・シンドラーム (A)
山本早苗 A sand flower side of the sea
工藤忠孝 町 1
小清水量造 アウトライン '87-R1
とくだあきら secret-zone 863
八木なぎさ 夜の空
和田朋子 トロルの森
中山岳美 街 No.3
邱明嬌 排湾族の女
安原典子 The first view

近藤憲昭 Bound for India
遅澤恵美子 向こう側のユメをみたんだ
山家久幸 街はずれ
利渉重雄 瞑想の時

〈彫 刻〉

小田切秀樹 橋
平田文香 思い出
辻 忍 らせん
酒井道久 ベースライン II
村田良樹 サイ
〃 '86夏
川口シノブ 顔を覆う女
男谷浩一 母子像
崎田 潤 オンナ I
古屋隆夫 狐 (FLY-HIGH)
三木 勝 傷ついた男
高橋 忠 伊豆の娘
福田義一 春 (シュン)

〈立体造形〉

仲谷 静江 合 う
高橋 万弥 夢宙の庭
鈴木朝湖 ビグザム
笹岡可居 私を見つめるCORE
金井良子 風景の中の人格
青木恵子 コトバ以前 '87-4・5
倉橋元治 修 羅
線 幸子 1987一層 VIII
新垣宏久 はこトひもダツタカタチノせいどう I
窪田俊三 アッケラカン
田中太賀志 根 立
陰里寿朗 博物記 (風景のような)
高橋 勉 Black Box III 「水面」
山口俊朗 関係 I
津田竜之介 夢人 (MUJIN)
栢沼州良 PASS THROUGH
佐々木紅葉 釘と合板
青木 敦 CONSONANCE
宮内洋幸 Wall of Olius
児玉士洋 MEDITATION…瞑想
飯室哲也 線状の空間感覚—ヨドミの音色—
久松共子 743 pcs.のドローイング
森島郷子 サマーシャービック
津田佳紀 トロメタル II
桜井典夫 MG-1
三枝泰之 初めの約束
赤嶺清順 空 遊

審査経過

〈日本画〉

今年の日本画の搬入数は74点、入選28点、昨年より応募は減少したが、内容は良くなっていた。小さい趣味風な作品が殊に減ったこともよい結果で、特に大作が多く150号、130号、120号がほとんどだった。

賞の選考の席上でも話しが出て居たが、今年は世代の交替期ではなかろうかということ、つまり20代の前半の人がほとんどで、受賞も初出品で初受賞が何組かあった模様である。神奈川県展のよさはそのレベルの高さもさることながらその初々しさであろうかと思はれる。思い切りよく、毎年若々しい作品を残して(入選、受賞と、)作家は通り過ぎてゆく秋風のように爽やかだ。此处二、三年の入選者の顔ぶれも大きく変っているし、それでよいのだと私は思う。今年の賞候補作は4点で、そのうち3人受賞と決定した。次点の波多野杜邦氏の「夜明け」も地味だがよい作品だったと思う。清野圭一「夜の響」は港の夜と工場地帯のサーチライトの光りなどを組合せた構成に面白さがあり、高沢かおり「とうもろこしの畑」も学校の傍の推肥畑を素直にスケッチしたものだそうで、分割が楽しく、小玉文夫「宙」は夏の夜空の星を描いたもので、図式風だが情感のある背景を感じさせた。そのほかでは候補を競った岡崎孝彦「回想」も力作だった。

さきほど書いた通り過ぎてゆく画家ではなくて、県展の古参の作家も毎年三、四人居て努力作を出されているようだ。加藤敏夫、鶴田耕治、吉武千枝の諸氏などである。そのほかにも若々しく実験的な作品も目についた小野友三、松田一弘、榊原菜穂子などであるが、日本画の場合は何と言っても自己表現の為には材質に関する適切な技法を深く身につけるよう、日々の積み重ねを望むわけであろう。

近藤弘明

- 搬入点数 74点(64人)
- 入選点数 28点(28人)

〈洋画〉

搬入作品は、388点を数えたが、これは、ほぼ前回と同数ちかい点数である。入選作品を78点にしぼり、そのなかから賞候補の作品を4点選出した。とくに賞候補を選ぶ段階では、15点から4点にしぼらなければならなかったので、作品の水準や傾向などを考慮して、いろいろ話しあいがおこなわれた。それぞれ甲乙つけがたい作品ではあったが、結果として以下の4点を選出するところとなった。

桜井陽子「ONE SPACE」、臼井恵之輔「FU87-7」、
斉藤由美「星霜」、小川知紀「空間認識」——である。

これは一般的な公募展の傾向であるが、なかなか漸新な作品は出てこないものである。第23回目をむかえた本展でも大同小異であるが、しかし、明日への展開を期待するという点からみた場合には、必ずしも悲観すべきことではない、というのが審査に加わった私の印象である。

臼井恵之輔「FU87-7」は、科学時代にふさわしい空間的なひろがりを感じさせるし、また斉藤由美「星霜」は、デリケートなマチエールをもった、なかなか洒落た作品である。小川知紀「空間認識」は、リズムミクな構成と感覚の新しさが眼を引いたし、桜井陽子「ONE SPACE」は、むずかしい対象を破たんなく描ききっている。いずれも傾向を異にしているが、絵画のもつ造形的な意味を開拓していてさすがしい。

それぞれ作家は、追求している課題を異にしているので、一律には論じられないが、造形的な面において、もっと工夫があっていいと考えられる作品が多かったことを付記しておきたい。

酒井忠康

- 搬入点数 388点(208人)
- 入選点数 78点(78人)

〈版画〉

本年の搬入数は、46名の104点で、昨年の61名142点に比べると、かなりの減である。減少の傾向は、工芸部門を除いて全体に及んでいるとのことであるが、それにしても版画部門の減少幅が大きい。事務局の搬入当日の天候などの説明があったが、いささか不安な面持ちで審査に入った。

先ず作家ごとに前に並べて選び、選び切れない作家は保留とする。この段階で全作品に目を通すわけだが、一通り終って、数が少ないが、力作が多いという印象を受けた。

次に保留作家を並べて、審査員同志忌憚のない話し合いをしながら選考する。この段階では、一定の力はあるが表現の一貫性のないもの、なかんずく器用に幾つかの表現を見せて、審査員任せの意図さえうかがえるものは、厳しい批評の対象となった。やはり、作品1点の上でも力が弱いのである。

一通り終ったところで、2点作品の作家が3名、他は各1点となる。事務局より、搬入数の割合からすると、入選は30点位とのことであつたが、それからすると15点ほど多い。最終的に何点を入選するかは別にして、もう一度全作品を並べて、話し合いながら選ぶ。ここでは、一定の技術はあるが、表現が無く手慣れたパターンでまとめたもの、また特に木版に多いのだが、表現が民芸的な味をなぞっているだけで、現代を反映した造形が無い作品が目立った。

しかしながら、あれもこれもと落すだけでなく、多少技術や造形の上で稚拙であっても、表現の上で大切なものを感じさせるものは、幅広く残すこととした。またここで2点残っていた作家は、結局1点ずつとなった。

結果は10点ほどしぼられ、35点を入選とすることとなった。

更に受賞候補作家4名を選考したが、先ず最後まで作品が2点残った藤波理恵子の「種子」(銅版)が選ばれ、次にやはり銅版の隅部滋子「Blowing in the stream」が選ばれた。

藤波理恵子は、技術は未熟ながら、表現の感性に光るものを感じられた。隅部滋子の殆ど完成された技術には感心させられた。表現ともなじて良い時期と思うが、表現が硬化しないことを望みたい。次に村岡千秋「チャイナ・シンдрローム(A)」

(リトグラフ)と西川洋一郎「MIRAGE'86-7」(石版)が選ばれた。村岡の作品は、その特異な色彩とあいまって、平面造形とも心象風景ともとれる不思議な空間を呈している。まとめた作品を見たいものと思った。最後に西川の作品だが、やや技術がまさって、表現が工芸的だが、地力は十分にあるとして可とした。駄足ながら、額縁の余計な凝りようは、止めた方がよいと思った。

以上で審査は終ったが、全体として力作が多く、私も作家として様々な刺激を受け幸せな一時であったが、版の上でも造形表現の上でも、ドキッとするような破格なものが無かったのが、少し不満であった。

柴田昌一

- 搬入点数 104点(46人)
- 入選点数 35点(35人)

〈彫刻〉

今年の彫刻部門の搬入点数は昨年よりやや減少しているが、これは彫刻と立体造形部門の境界があいまいで、重なり合っているために出品者に選択のとまどいがあったのではと思われる。

全体を見渡してみると頭像、全身像といった具象的な作品が圧倒的に多く、抽象的な作品は数点のみであった。また、作品の傾向や内容からみて工芸部門に出品した方がよいと思われるものも数点あった。

作品の選定は或る水準以上の質のよいものを入選としたが、その中で準大賞に選ばれたMADAN. LAL氏の「LANDSCAPE」は、レンガを削って成形した特徴ある単純な形態を床に三角状に構成したもので、作者のイメージする原風景が、見る者に安らぎと清潔感をもたらすよい作品であった。また、特別奨励賞の長江真弥氏の「家(II)」は、妖怪のような不思議な形態が家を象徴し、その中に小さい人の立像と組み合わせた作品だが、現代の世相を批判的に捉えた姿勢と造形感覚があいまって造形空間に緊張感をもたらすよい作品となっていた。更に、美術奨学会賞の神山茂樹氏の「岬」は、男女の立像であるが、形態の捉え方に特徴があり、収歌的な土の臭いが感じられる好感のもてる作品であった。その外に、高橋忠氏の「伊豆の娘」も量塊の捉え方と表現の巧みさが印象に残った。

彫刻は、自然や人工の素材を用いて、自己の心象を立体的に造形化する活動であるが、現代に生きながら変わりゆくものと変らぬものとの狭間にあって、自己のテーマを追求し、個性的な作品が今後も出品されるよう期待したいと思う。

斎藤顕治

- 搬入点数 30点(24人)
- 入選点数 16点(15人)

〈立体造形〉

今年の立体造形部門は搬入点数が66点で、昨年の74点より若干減った。そこで、入選も昨年31点に対し25点ぐらいにしぼろう、と話しかって審査に入ったのだが、結果としては昨年とあまり変わらない30点が入選となった。それだけ心ひかれる未知の作家、すてがたい作品が多かったわけである。

紙数がかざられているので、作品評は受賞作が中心になるが、今年は立体造形部門から大賞が出た。高橋洋子は透明なプラスチックの水槽に機械で波をおこし、その光を布に反射させる作品で昨年も特別奨励賞を受賞している。今回は彫刻室中央の階段下という死角のような場所を選んで、一方に青いフェンスをたて、階段が途中で屈折する踊り場の底面に波うつ光を反射させた。このように会場空間をそのまま生かした創意が評価され、受賞審査の得票数でも終始他の作品をリードしてすんなり大賞にきまった。山上晴光はたぶん県展では新顔だが、表面を赤く錆びさせた鉄を素材として、細い塔のまわりに立体を円環状にならべ、モニュメンタルな迫力をおびるとともに、鉄の扱い方にかなりの力量がみとめられる。イングリット・ホイサーも初入選で、人体のぬけ殻のような奇妙な中空のオブジェを宙に吊り、足もとの床に米をおいたのが、日本人にはない新鮮な構想で注目された。〈東京へのオマージュ女殺人者のための祭壇〉という題名も、痛みなアイロニーにみちている。

惜しいところで賞をのがしたが、津田龍之介の〈愛人〉も魅力的な人体彫刻を使ったインスタレーションである。飯室哲也の〈線状の空間感覚—ヨドミの音色〉も、交錯する斜線で空間をシャープに息づかせたインスタレーションとして印象に残った。津田佳紀の言葉を発音する機械も前回より声が自然になったが、前回特別奨励賞を受賞したので最後に賞候補からはずされた。

針生一郎

- 搬入点数 66点(57人)
- 入選点数 30点(30人)

大賞受賞者

- | | | | | | |
|------|------|-------------------------|------|------|-------------------------------|
| 第1回 | 40年度 | 大森運夫「九十九里」《日本画》 | 第20回 | 59年度 | 東谷武美「日蝕F」《版画》 |
| 第2回 | 41年度 | 廣瀬義男「作品I」《洋画》 | 第20回 | 59年度 | 西 雅秋 |
| 第3回 | 42年度 | 堀内治雄「坐る」《彫刻》 | | | 「CASTING VIEWPOINT」《野外彫刻》 |
| 第4回 | 43年度 | 川村直子「'69-A・'69-B」《洋画》 | 第20回 | 59年度 | 林 亘「クリスタル大鉢“洞”」《工芸》 |
| 第5回 | 44年度 | 山井イク夫「Lady70-1・2」《立体造形》 | 第21回 | 60年度 | 鶴見厚子「夢の質感」《洋画》 |
| 第6回 | 45年度 | 伊藤 彬「天涯巡礼」《日本画》 | 第21回 | 60年度 | 石渡四郎「硫黄島の再会」《写真》 |
| 第6回 | 45年度 | 大久保利園「Straw」《工芸》 | 第22回 | 61年度 | 会田富二男「駆けゆく母子像」《彫刻》 |
| 第6回 | 45年度 | 西川万象「廬子諒詩」《書》 | 第22回 | 61年度 | 浜本舩舟「良寛詩」《書》 |
| 第6回 | 45年度 | 加賀谷武男 | 第23回 | 62年度 | 高橋洋子「WAVE (BLUE FENCE)」《立体造形》 |
| | | 「にっぽんNONSENSE ZONE」《写真》 | 第23回 | 62年度 | 森山可余「俳句(原石鼎)」《書》 |
| 第7回 | 46年度 | 中西新太郎「落日」《洋画》 | | | |
| 第7回 | 46年度 | 島津碧嵩「寒山詩」《書》 | | | |
| 第7回 | 46年度 | 大谷正夫 | | | |
| | | 「師ミス・ザンダー(フェリス女学院)」《写真》 | | | |
| 第8回 | 47年度 | 佐々木英夫「人間の風景1・2」《版画》 | | | |
| 第8回 | 47年度 | 林 良達「騎士」《工芸》 | | | |
| 第9回 | 48年度 | 河原 明「蜻蛉」《彫刻》 | | | |
| 第9回 | 48年度 | 石川充宏「Girl in chair」《工芸》 | | | |
| 第10回 | 49年度 | 大山 鎮「語り」《日本画》 | | | |
| 第11回 | 50年度 | 鎌田恵子「Lost my way」《工芸》 | | | |
| 第12回 | 51年度 | 泉谷淑夫「愁傷のモニュメント」《洋画》 | | | |
| 第13回 | 52年度 | 井上 麦「黒の女-77」《彫刻》 | | | |
| 第14回 | 53年度 | 坂田一之「MIRROR」《立体造形》 | | | |
| 第15回 | 54年度 | 前本利彦「暗い部屋 I・II」《日本画》 | | | |
| 第15回 | 54年度 | 川口流坡「菅原道真詩」《書》 | | | |
| 第16回 | 55年度 | 和久井Who「HANGING」《立体造形》 | | | |
| 第16回 | 55年度 | 市原欣一「ふるさと」《写真》 | | | |
| 第17回 | 56年度 | 坂井彰夫「SEISHO」《彫刻》 | | | |
| 第17回 | 56年度 | 高木参平「BODY」《工芸》 | | | |
| 第18回 | 57年度 | 小原正彦「冬の木」《洋画》 | | | |
| 第18回 | 57年度 | 井上隆敏「イグナドバ選手」《写真》 | | | |
| 第19回 | 58年度 | 井上 麦「土の系譜」《彫刻》 | | | |
| 第19回 | 58年度 | 茶木静谷「竹豊松影」《書》 | | | |

第23回神奈川県美術展関係者名簿

■ 顧問

小 倉 遊 亀
中 島 清 之
斎 藤 義 重
圓 鋳 勝 三
高 田 博 厚
蓮 田 脩 吾 郎
殿 村 藍 田
比 田 井 南 谷
(順不同)

■ 委員会委員

委員長
上 野 豊

副委員長
李 家 正 基

神 戸 由 雄
菅 原 寿 雄
匠 秀 夫
土 屋 利 保
吉 田 耕 三
柳 生 不 二 雄
弦 田 平 八 郎
加 藤 東 一
國 領 經 郎
斎 藤 壽 一
井 上 信 道
斎 藤 義 重
永 井 鐵 太 郎
殿 村 藍 田
奥 村 泰 宏
(順不同)

■ 大賞・準大賞選考委員

〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形〉

近 藤 弘 明
弦 田 平 八 郎
酒 井 忠 康
國 領 經 郎
馬 場 博 男
柳 生 不 二 雄
井 上 信 道
斎 藤 義 重
針 生 一 郎
(順不同)

〈工芸・書・写真〉

永 井 鐵 太 郎
吉 田 耕 三
菅 原 寿 雄
殿 村 藍 田
奥 村 泰 宏
森 山 大 道
(順不同)

■ 審査員

〈日本画〉

加藤 東 一
片岡 球 子
近藤 弘 明
弦田 平八郎

〈洋画〉

奥谷 博
國領 經郎
酒井 忠康
田沢 茂
中原 佑介
宮崎 進

〈版画〉

斉藤 寿 一
柳生 不二雄
馬場 橋 男
吉田 克朗
柴田 昌 一

〈彫刻〉

井上 信 道
斉藤 顕 治
渋谷 武 美

〈立体造形〉

倉重 光 則
斎藤 義 重
中島けいきょう
針 生 一 郎

〈工 芸〉

青野 武 市
江刺 栄 一
望月 正 子
赤堀 郁 彦
佐野 登 志子
佐藤 樹 美
石塚 直 治
市橋とし子
永井 鐵 太郎
吉田 耕 三

〈書〉

島津 碧 崑
菅原 寿 雄
竹田 悦 堂
大藤 史 城
茶木 静 谷
殿村 藍 田
船本 芳 雲
吉田 蘭 処

〈写真〉

奥村 泰 宏
五十嵐 英 寿
浜口夕カシ
森山 大 道
江成 常 夫
(順不同)

■ 実行委員

〈日本画〉

浅見 信 夫
大山 鎮
◎能島 和 明

〈洋画〉

阿部 和 美
◎白鳥 三 郎
鈴木 雪 子
鈴木 隆 夫
松野 俊 雄
吉崎 道 治

〈版画〉

◎天野 純 治
岡本よし美
西田 知 子

〈彫刻〉

金子 典 義
河原 明
◎丹羽 武 雄
松本 繁 来

〈立体造形〉

◎鈴木 豊 男子
田中 恭 子
羽生 真

〈工芸〉

〈工芸〉

飯野 啓 三
市村 富美夫
江刺 栄 一
江成 房 子
◎小林 貢
小山 岑 一
南雲 陽
松本 祐 昌
望月 正 子

〈書〉

◎仙場 右 羊
大島 崑 山
溪口 幽 城
重田 翠 村
伊奈 翠 陽
岩澤 蕙 堂

〈写真〉

阿部 夕モツ
篠崎 明 弘
鈴木 健 夫
高橋 勤
中島 倍 三
三井 文 一
◎吉田 健 吉郎
(順不同)

◎は実行委員長



ごあんない



世界の名画と出逢える そごう美術館。

そごう美術館は、国内はもとより世界中から名作、名画が集まる本格的な美術館です。旅先で出逢った景色の美しさに感銘を覚えるように、優れた芸術との出逢いもまた、人々に大きな感動を与えてくれます。エキゾチックな歴史と物語が現代に調和する街、横浜に誕生した新しい美術館。そごう美術館へあなたもいちど、お越しください。

〈そごう美術館のシンボル〉

ルノワール作「勝利のビーナス」が
永久保存されています。



'87秋の 主な展覧会予定

■開館2周年記念 **大ヴァチカン展**

9月30日(日)→11月3日(火・祝)

■イギリス・アメリカ **ぽっぷあ〜と展**

11月26日(木)→12月13日(日)

■再興 **第72回院展**

12月16日(水)→12月28日(月)

※会期については都合により、変更のある場合もございます。

期間中、何回でもご利用いただける便利な
パスポート発売中。

●1年間有効パスポート

5,000円

●6か月間有効パスポート

3,000円



横浜駅東口・横浜そごう6階

開館時間AM10:00～PM7:00

入場は閉館の30分前まで

休館日・火曜日

そごう美術館

〒220 横浜市西区高島2-18-1

TEL.045(465)2111〈大代表〉

SOGO MUSEUM OF ART

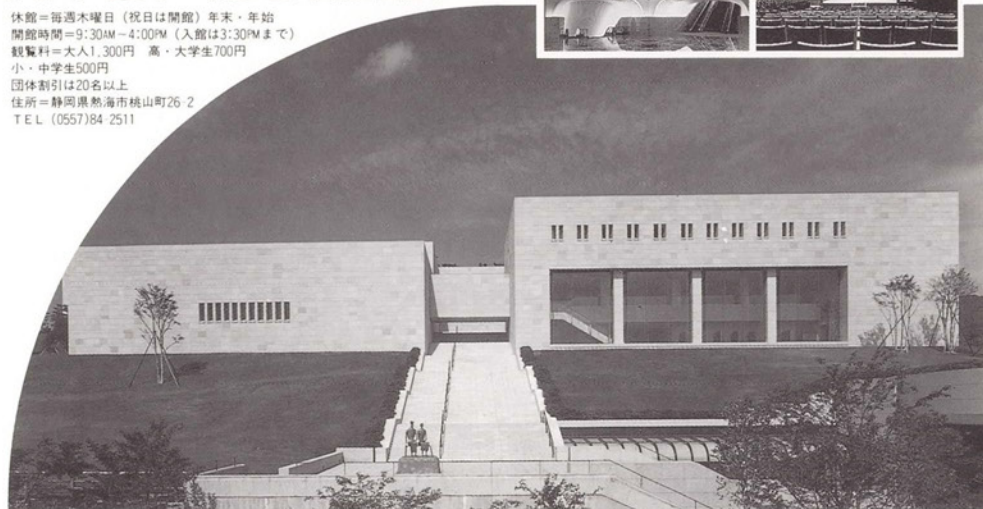
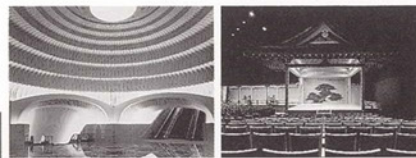
庭園と日本古陶磁 箱根美術館

休館＝毎週木曜日（祝日は開館）年末・年始
開館時間＝9:30AM～4:00PM（入館は3:30PMまで）
観覧料＝大人500円 高・大学生300円
小・中学生200円 団体割引は20名以上
住所＝神奈川県箱根町強羅1300
TEL (0460)2-2623



壮大な建物、ユニークな施設 MOA美術館

休館＝毎週木曜日（祝日は開館）年末・年始
開館時間＝9:30AM～4:00PM（入館は3:30PMまで）
観覧料＝大人1,300円 高・大学生700円
小・中学生500円
団体割引は20名以上
住所＝静岡県熱海市桃山町26-2
TEL (0557)84-2511



Modern and



Contemporary Art

●シリーズ I

井上 麦(彫刻) 東谷 武美(版画)
藤 樫 正(写真) 利 涉 重雄(版画)
鐸 本 純一(洋画) 李 赫(彫刻)
鶴 見 厚子(洋画) 高 垣 秀光(版画)
加 藤 聖(版画) 松 原 賢(洋画)

■ 翔展(総括)

●シリーズ II

五島三子男(立体) 大 庭 明 子(版画)
難 波 京 子(立体) 植 田 曠 躬(洋画)
加藤安佐子(洋画) 永井ひとみ(デザイン)
黒 川 洋(洋画) 勝 又 豊 子(立体)
佐々木英夫(版画) 河 口 聖(版画)
坂 田 一 之(立体) ■ 翔展(予定)

●シリーズ III (募集中)

天 野 純 治(版画)
藤 田 修(版画)
泉 谷 淑 夫(洋画)
山 口 喜 弘(洋画)
鶴 見 厚 子(洋画)
渡 辺 邦 夫(立体)

神奈川県美術展受賞作家シリーズ

Sairin Gallery

●常設・企画画廊

●オープン・スペース

壁面総延長=27.50m

天 井 高=2.70m

面積(床ACフロア)=45.70m²

1 日 ¥30,000(顕賞制有り)

プロのために、プロの品揃えです。



 有隣堂

アーティストコーナー

画材／日本画材料／デザイン製図用品／書道用品

- 文具館〔3・4F〕ヨコハマ馬車道(旧ファボリ)Tel.(045)662-1231 ●藤沢店〔5F〕南口名店ビル……Tel.(0466)26-1411
●横浜駅東口ルミネ店ルミネ5F……Tel.(045)453-0811 ●厚本店〔3F〕小田急線本厚木駅前Tel.(0462)23-4111

※書道・日本画用品のみ取扱っております。

有隣堂ギャラリー／横浜馬車道・有隣堂ギャラリー(年中無休)



The DIAMOND

かどを曲がるとキミがいた。

夏のアフタヌーン

The DIAMOND

YOKOHAMA

薔薇の街角。

PORTA

● 営業時間 AM.10:00~PM.8:30
(飲食店/A.M.11:00~PM.10:00)



FAUCHON

フランスを鑑賞 フォション「アップルティ」

フォションはパリ・マドレーヌ広場で味を誇る
高級食料品店。紅茶・コーヒー・スパイス・パン・
ケーキ・瓶詰・缶詰…そのひとつひとつにフランス
の味の文化が集約されています。

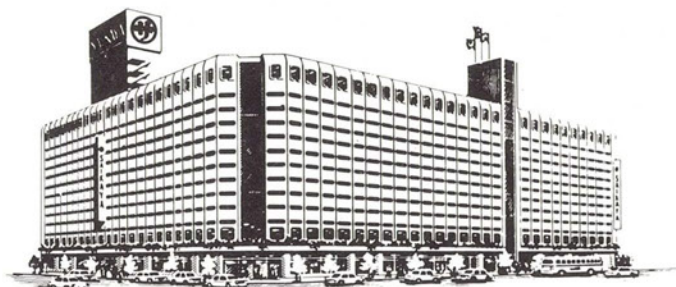
特に紅茶では香りの高いアップルティが人気！
タカシマヤだけでもおとめいただけます

●フォション・アップルティ〈地1階〉

 **Takashimaya** YOKOHAMA

横浜駅西口/TEL.(045)311-1251

よい品にまごころそえて 豊かな暮らしのお手伝い。



●川崎店 ☎044・211・3111 〒210 川崎市川崎区小川町1



●横須賀店 ☎0468・23・1234 〒238 横須賀市大滝町1-10

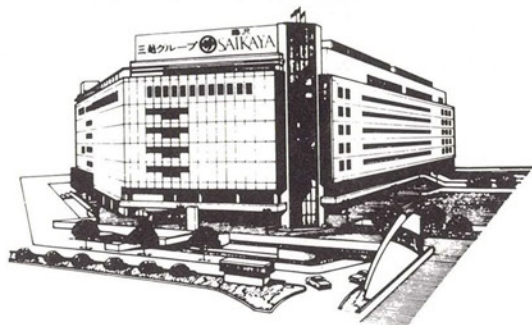


さいか屋

川崎店・横須賀店

水曜定休

世界のファッションと文化のプラザ



●藤沢さいか屋 ☎0466・27・1111 〒251 藤沢市藤沢555



三越グループ

藤 沢

さいか屋

水曜定休

若い仲間のファッションロード
ジオルナ



●町田ジオルナ ☎0427・23・2531

〒194 町田市原町田6-6-14



MACHIDA

JORNA

第2・3水曜定休

YOKOHAMA イセブラ MY TOWN



500円券から10万円券までの6種類のほか500円券もございます
全国の松坂屋・大丸でご利用いただけます

贈りものに 横浜松坂屋の 商品券



イセザキ・モール 電話 261-2121 水曜定休

本館1階・地階は7時まで営業



KODAK IMAGICA K.K.

写真が、色めくね。

コダック・イマジカ株式会社 10月1日誕生。

映像の世界を、もっと広げるために。
もっと、わくわくしたものにするために。

イーストマン・コダック社と
株式会社IMAGICAが手を取りあって、
新しい会社をつくりました。

10月1日スタートの、コダック・イマジカ株式会社。
株式会社IMAGICAの写真事業一切を継承するとともに、
写真の新しい可能性に挑みたい、と意欲満まん。
写真がおもしろくなるのは、これからだ。

コダック・イマジカ株式会社

〒141 東京都品川区東五反田2-9-15 ☎03-445-1630

UCHUDO

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。

ALL OF ART MATERIAL

宇宙堂

横浜店 横浜ステーションビル・シアル4F TEL 045-311-2770

蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、荻窪、静岡、松戸、他全15店舗



心のこもったお付き合い

頼んでみればわかります。
美術品取扱い専門の会社です。
安心してご利用下さい。

業務品目

- 展覧会 搬入・出代行
- 展示・陳列
- 貸 額 縁
- 画 材 販 売 (ロールキャンバス・木枠・額縁等)
- 展覧会 案内状・画集制作
- 地 方 発 送 (海外発送含) etc

有限会社
アートサービス

電話受付時間

月曜～土曜 AM10:00～PM6:00

日曜・祭日・上記以外の時間は
留守番電話にて承ります。

受け手の心に響く
より秀れた印刷物を
創ります。

●販促用印刷

営業案内、カタログ、パンフレット、ポスター、チラシ(折込配布まで)、ダイレクトメール、POP、シール、ラベル、カタログ名刺など、企画・デザイン・撮影から印刷まで高級美術印刷の技術を存分に発揮し、どこにも負けない品質でお応えします。

●自費出版

詩集、歌集、小説、楽譜(曲集)、画集、絵はがき、漫画、絵本、随筆集、童話、写真集、自分史、遺稿集、追悼集など文集、社史、寺史など記念誌は、企画・取材・原稿づくりからスタッフがお手伝いいたします。

●コンピュータによる情報処理加工

コンピュータを駆使した名簿の作成は、アイウエオ順、地域別、年齢・年度別などの並べ換え処理が社内スタッフにより可能です。また、マラソンや競技会の着順、タイムなどの結果処理もお引き受けいたします。

●定期刊行物

社内報、団体・サークルの機関誌、PR誌、コミュニケーション誌、学校新聞など、企画・取材・デザイン・撮影・編集から印刷まで一貫生産いたします。

●テレホンカード

会社のPR、販売促進、記念品、ご贈答などに、オリジナルのテレホンカードをつくってみませんか。お急ぎの場合はお気軽にご相談ください。

●一般印刷

音楽会プログラム、個展・展覧会等の図録、封筒、便せん、レターヘッド、予算書、決算書、各種伝票、コンピュータ用連続伝票、レストランの高級メニュー他。

株式会社
野毛印刷

神奈川県知事指定標準工場
通産大臣賞、中小企業庁長官賞
東京通産局長賞受賞

本社/横浜市中区相生町5-79 千231 ☎(045)681-0861代
営業本部/横浜市中区新川町1-2 千232 ☎(045)252-2511代
東京営業所/東京都港区麻布台2-3-12 千106 ☎(03)583-2679代

企画から納品まで、一貫したシステムでお引き受けする営業品目。お客様のご要望にお応えて、100余名のスタッフが自信をもっておとどけます。

お問合せ、ご相談はお気軽に——。

営業企画本部
☎(045)252-2511

●お急ぎの原稿はファクシミリをご利用ください。

営業企画本部/Fax(045)251-7216
東京営業所/Fax(03)585-5974

野毛印刷姉妹会社
印刷ショップ アトラス
☎(045)641-4132

企画・デザイン
Atlas Creative Boutique
☎(045)201-8263

発 行 神奈川県美術展委員会
事務局：神奈川県県民部文化室
表紙デザイン 伊東 寿太郎
撮 影 (株)菊屋写真工房
制 作 株式会社 野毛印刷社

